

こんにちは。

とうとう最後の報告書となり、日本からこの報告書を書いています。新型コロナウイルスの影響で帰国が数日早まり、11月中旬に帰国をしました。

現地校では11月は学年末最後の月であり、試験や課題に追われた月でした。英語で授業を受け、課題を行うというのは渡豪してから約10か月経っても簡単なことではありません。しかし、個別に指示を受けなくてもクラスメイトと同様に授業を受けられること、何かトラブルがあったときは自分で状況を説明し助けを求められることなどを考えると、自分の成長を感じることができて嬉しいです。また、学校最後の日に校長先生から Principal's Merit Award という成績優秀賞を頂きました。この一年間、自分の英語力の欠如を自覚し学校の勉強に一生懸命取り組んできたので、その努力が報われたように感じます。

最後の月ということもあって、11月はホストファミリーをはじめ、留学プログラム担当の先生方、友達がフェアウェルパーティーを開いてくださいました。必ずまた会おうねと泣いてくれる友達もいて、改めて私は環境に恵まれていたのだと自覚しました。右も左もわからず、英語も満足に話せない私がこの一年間楽しく過ごすことができたのは、ひとえにホストファミリー、学校の先生、友達の助けがあったからです。帰国前はとにかくホストファミリーとお別れしたくなくてずっと泣いていました。留学をしてたくさんのものでした私ですが、ホストファミリーと出会えたことが一番の財産です。帰国して一か月強が経ちましたが、今でも週に一回ビデオ電話をして連絡を取り合っています。

私が留学を通して学んだことの中に、自己肯定感を持つことの重要さというものがあります。オーストラリアに来る前は、自己肯定感がとても低く自分に自信を持っていませんでした。しかし、留学中に勉強を頑張って賞をもらったこと、いいものにしようと努力し作成したゼミナール研究が代表に選ばれたこと、オーストラリアで一年間無事に生活できたこと、これら全てが私に自信を持つきっかけを与えてくれました。頑張っていたらきっと誰かがそれを見ていてくれる、努力は報われる。簡単なことですがそれは実際に体験するまで気づくことができないものなのだと感じました。これから受験を控え、他人と自分を比べる・比べられる機会は前よりもっと多くなると思います。そんな中自分を信頼してあげる、愛してあげることはすごく重要な意味を持つはずですよ。

正直、高校二年生で留学をしたことが自分にとって最善だったのかはまだわかりません。得たものが多かった反面、日本での勉強などできなかったことも多いからです。一年間の経験をこれからどう活かしていくか次第で留学した意味が変わってくると思います。後悔のないように、留学という選択が自分にとって最善だったと胸を張って言えるようにこれからも英語力向上など頑張っていきたいです。

白鷗高校 12 期生 次世代リーダー8 期生 K・R